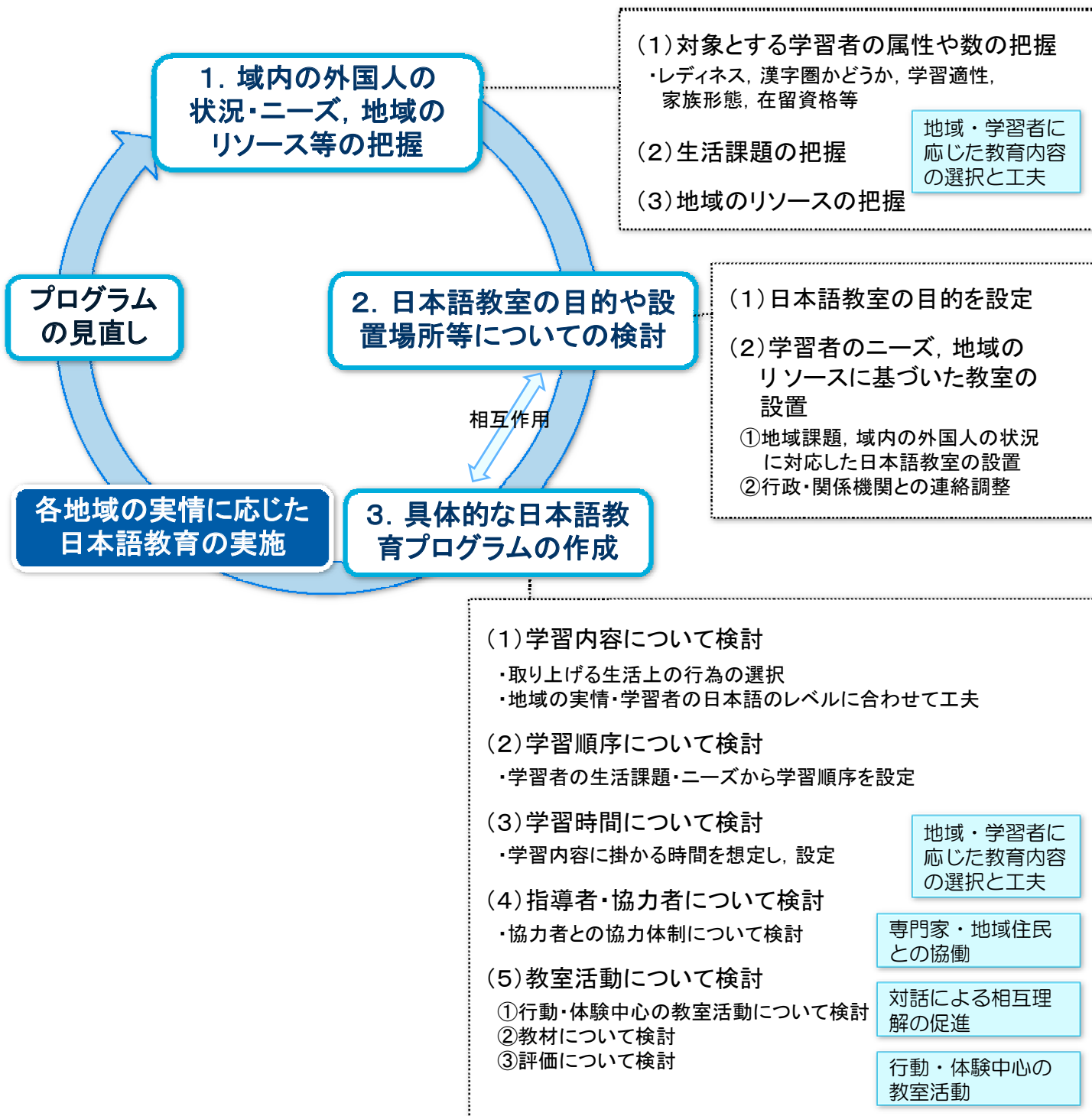


具体的な日本語教育プログラムの作成手順(案)

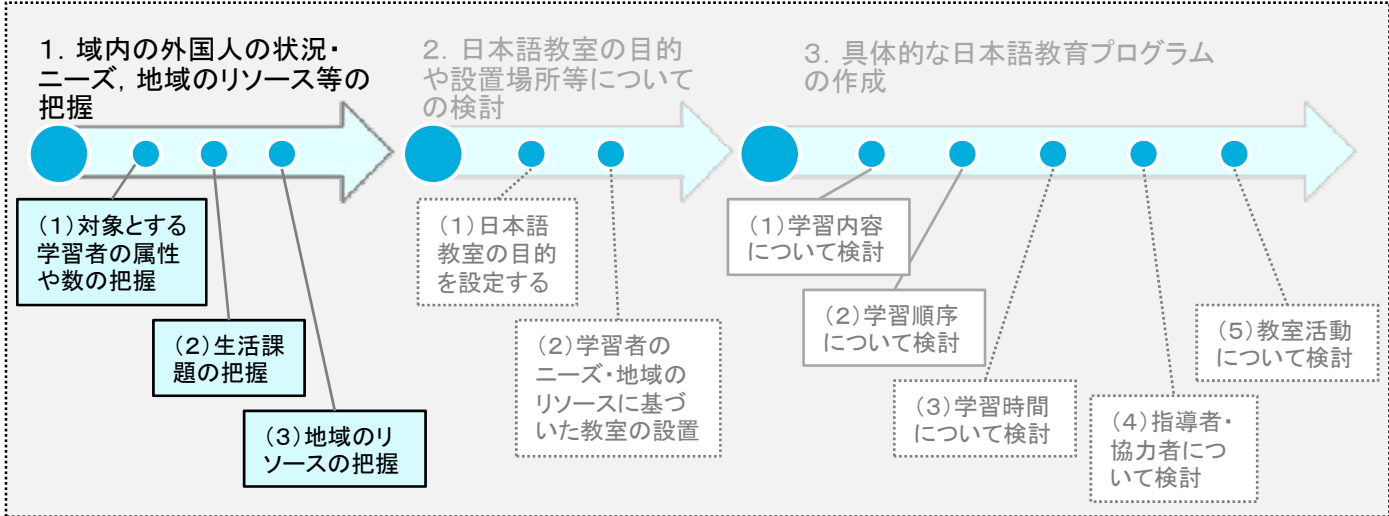


○本資料において 明朝体 で示している部分は各地域において検討すべき内容を例で示している部分である。

1. 域内の外国人の状況・ニーズ、地域のリソース等の把握

地域の実情に応じた日本語教育を展開するため、まずは地域の状況（地域における外国人の増減とその理由など）、域内の外国人の状況（生活課題等の個別の状況等）について把握することが必要である。情報収集の方法について、外国人本人へのアンケートやインタビューだけでなく、行政関係機関や地域住民等と幅広く、かつ継続的に情報交換を行うことが必要である。

【作業全体の中での位置付け】



【作業の内容】

(1) 対象とする学習者の属性や数の把握

- レディネス(日本語学習をどの程度行っているか)
- 漢字圏かどうか
- 学習適性(過去の言語学習経験等)
- 家族形態
- 在留資格
- 定住志向

(2) 生活課題の把握

- 日常生活(使用言語と使用場面、日本語でのやり取りが求められる場面、日本語学習に割ける時間)
- 生活面で課題として抱えていること
 - 1) 切迫度の高いこと
 - 2) 今できるようになりたいこと
 - 3) できればできるようになりたいこと
 - 4) 今後できるようになりたいこと

※「1) 切迫度の高いこと」や「2) 今できるようになりたいこと」、「3) できればできるようになりたいこと」等のリストを作成し、順に並べる

(3) 地域のリソースの把握

- 教室に使える場所
- 指導者
- 協力者の有無
- 協力機関の有無
- 多言語での情報の有無
- 通訳が配置されている場面

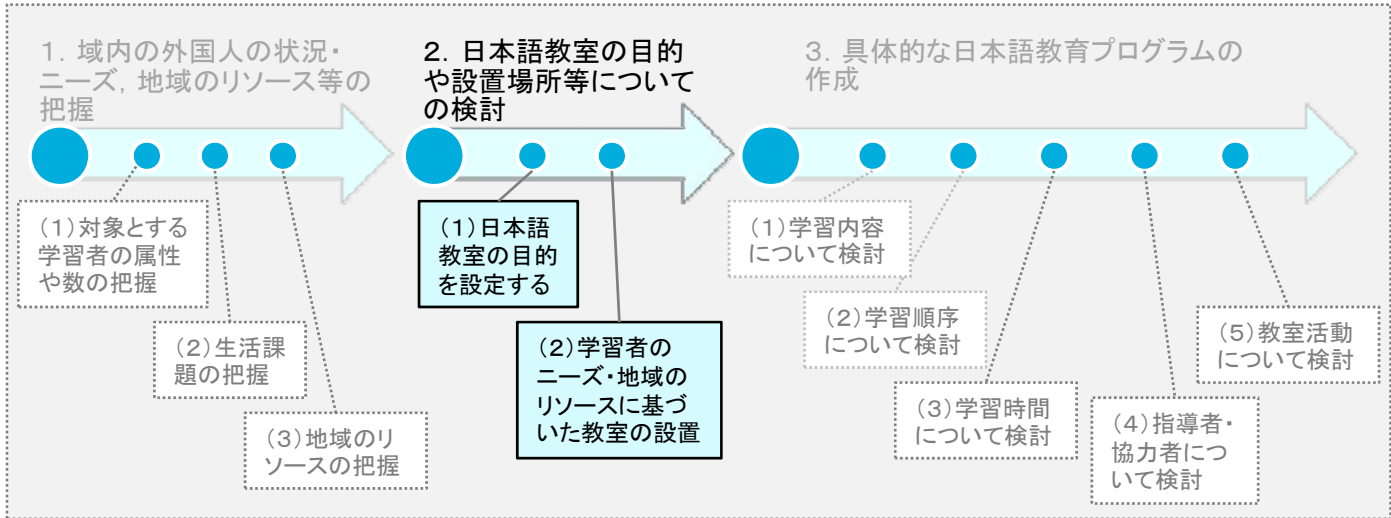
外国人

各地域

2. 日本語教室の目的や設置場所等についての検討

域内の外国人の状況，地域の資源等を基に，外国人の社会参加・エンパワメントにつながるような日本語教室の目的を設定する。日本語教室は学習者の通いやすい時間・場所に設定することが求められるが，その際，行政だけでなく，例えば学校や企業等，外国人に関わりのある機関，団体の協力があることが望ましい。

【作業全体の中での位置付け】



【作業の内容】

(1) 日本語教室の目的を設定

○漠然とした学習者像ではなく，域内の外国人の状況を踏まえた上で「具体的な学習者像」を設定し，そこから生活課題の改善に向けた教室の目的を設定する。

○外国人の社会参加，エンパワメントにつながる目標設定を行う。

(2) 学習者のニーズ・地域の資源に基づいた教室の設置

①地域課題，域内の外国人の状況に対応した日本語教室の設置（場所，日時等）

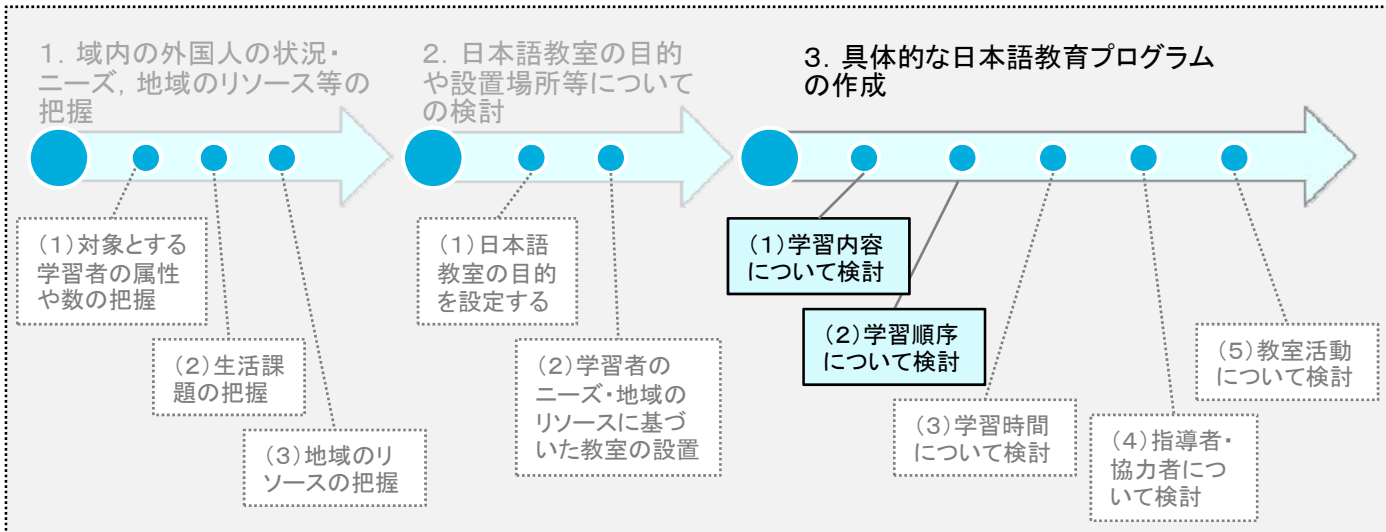
例：日系人就労者
→土日や平日夜間，受入企業と連携した日本語教室…等

②行政・関係機関との連絡調整

3. 具体的な日本語教育プログラムの作成(1)～(2)

日本語教育のプログラムを作成する際、外国人の生活課題を解決し、社会参加・エンパワメントにつながるプログラムとすることが基本である。具体的には生活課題の解決につながるような生活上の行為を切迫度・必要度が高いものから順に配列する。また、標準的なカリキュラム案で示している生活上の行為は地域性を考慮したものではないため、それぞれの地域や外国人の状況に応じて工夫を加えることが必要である。なお、【作業の内容】の部分では分かりやすさのため、具体例を通して手順の内容を示す。

【作業全体の中での位置付け】



【作業の内容】

(1) 学習内容について検討



日系人 就労者 A さんの場合

① 生活課題から優先度が高いものを選択する。

生活課題の優先度	生活課題の内容(できるようになりたいこと)
1) 切迫度の高いこと	生活ルールや地域の集まりについて知りたい
2) 今できるようになりたいこと	住民としての手続きができるようになりたい
3) できればできるようになりたいこと	行動範囲を広げ、知り合い・友達を増やしたい
4) 今後できるようになりたいこと	仕事で使う専門的な日本語を知りたい



② 生活課題の内容(できるようになりたいこと)に該当する生活上の行為を標準的なカリキュラム案から選択する。

標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為 (全30単位)
<input type="radio"/> 健康・安全に暮らす(7単位)
<input type="radio"/> 住居を確保する・維持する(2単位)
<input type="radio"/> 消費活動を行う(4.5単位)
<input type="radio"/> 目的地に移動する(3.5単位)
<input type="radio"/> 人とかかわる(2.5単位)
<input type="radio"/> 社会の一員となる(4.5単位)
<input type="radio"/> 自身を豊かにする(2単位)
<input type="radio"/> 情報を収集・発信する(4単位)

③生活課題の内容(できるようになりたいこと)に該当する生活上の行為から、より具体的な事例を選び出す。
(※下の表は選択後の事例を例示。)

④地域の実情・学習者の日本語のレベルに合わせて事例に工夫を加える。

標準的なカリキュラム案における生活上の行為の事例
<p>○ 社会の一員となる(4.5単位)</p> <p>3501100 行事に参加する 3501050 自治会の会員になる</p>
<p>○ 社会の一員となる(4.5単位)</p> <p>3401080 居住地域のゴミ出しの方法について隣人に質問する 3402030 マナーについて人に相談する</p>
<p>○ 人とかかわる(2.5単位)</p> <p>3101060 相手に合わせたあいさつをする 3101130 人間関係のきっかけを作るあいさつをする</p>

各教室で行う日本語教育の内容
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事について情報を得る ・地域の自治会の申し込みを読む
<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別について情報を集める ・隣人に分からないことを質問する
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの種類を知る

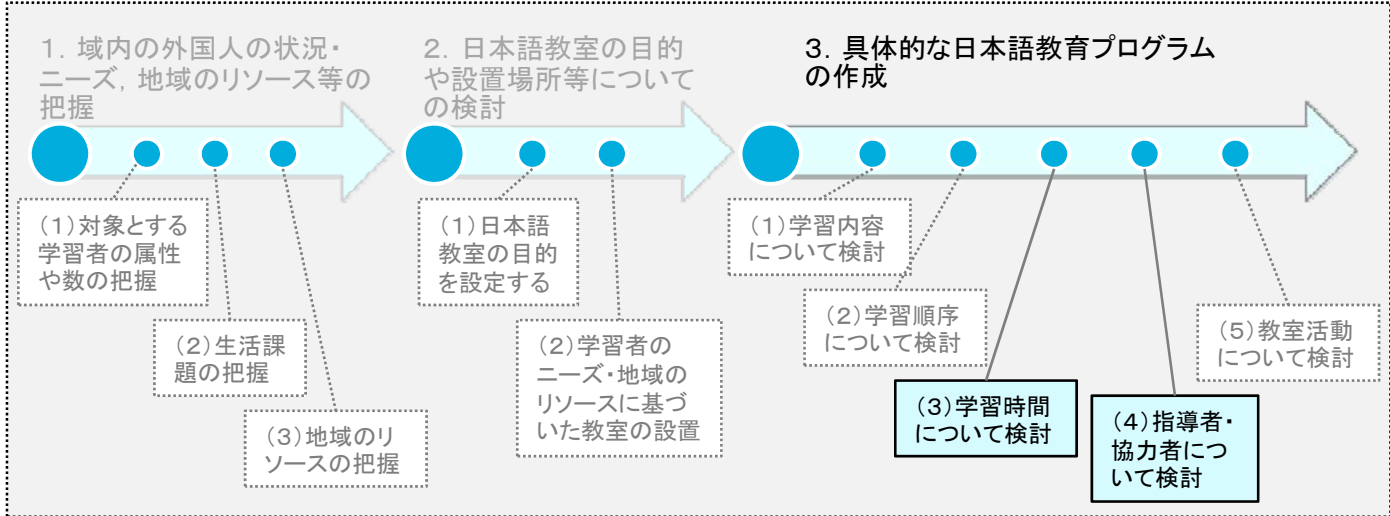
(2)学習順序について検討

○学習者の生活課題の優先度に合わせて学習順序を設定する。具体的には、「1. 域内の外国人の状況・ニーズ, 地域の資源等の把握」の「(2)生活課題の把握」の「1)切迫度の高いこと」, 「2)できるようになりたいこと」…の順に設定する。

3. 具体的な日本語教育プログラムの作成(3)～(4)

日本語教育プログラムにおける時間配分は、学習者による個人差に留意することが必要である。また、日本語教室の指導者・協力者について、講師だけでなく、広く地域住民の参加・協力を得ることが望ましい。教室活動を通して学習者と地域住民との接点を作り、外国人が地域社会で暮らす際のネットワークの構築・社会参加につなげていくことが望ましい。

【作業全体の中での位置付け】



【作業の内容】

(3) 学習時間について検討

○以下の表にあげる事項のほか、学習スタイル(目型, 耳型), 学習ストラテジーの傾向, 目標設定等を踏まえ、学習に掛かる時間を設定する必要がある。

○学習時間について設定する際、個々の学習者により必要となる学習時間は異なるが、地域における日本語教室においてはより時間が掛かる学習者が教室活動から排除されないよう留意することが求められる。

必要となる学習時間が短い	必要となる学習時間が長い
日本での生活経験が長い	日本での生活経験が短い
言語学習経験が長い	言語学習経験が短い
日本語学習経験が長い	日本語学習経験が短い
読み書きがあまり必要ではない	読み書きが必要である
自習時間が確保できる	自習時間が確保できない
漢字圏	非漢字圏

(4) 指導者・協力者について検討

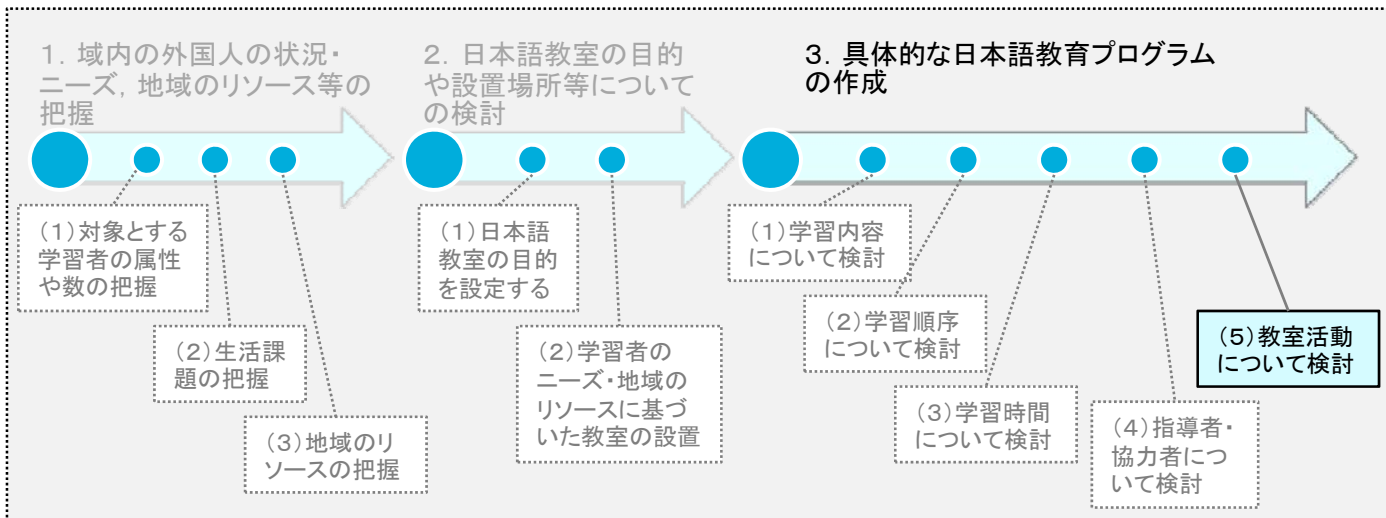
○以下の表に示す項目等に基づいて、協力者とその協力体制について検討。

学習者の状況	求められる協力者とその協力体制
日本での生活経験が短く、日本語学習経験も短い	指導者の他、日本での生活経験が長く、学習者と母語が同じ人が参加することが望ましい。
日本での生活経験は長い、日本語学習経験が短い	指導者の他、日本での生活経験が長く、学習者と母語が同じ人や地域住民が参加することが望ましい。
日本での生活経験も長く、学習経験も長い	指導者の他、地域住民が参加できるような体制を組み、対話・交流を中心とした教室活動を盛り込むことが望ましい。

3. 具体的な日本語教育プログラムの作成(5)

「生活者としての外国人」に対する日本語教育は教室内だけでなく、必要に応じて教室外にも積極的に出向き、行動・体験中心の教室活動を行うことが望ましい。日本語教室においては、各日本語教室の体制や取り扱う生活上の行為に合わせて行動・体験中心の教室活動の内容について検討し、実施することが求められる。

【作業全体の中での位置付け】



【作業の内容】

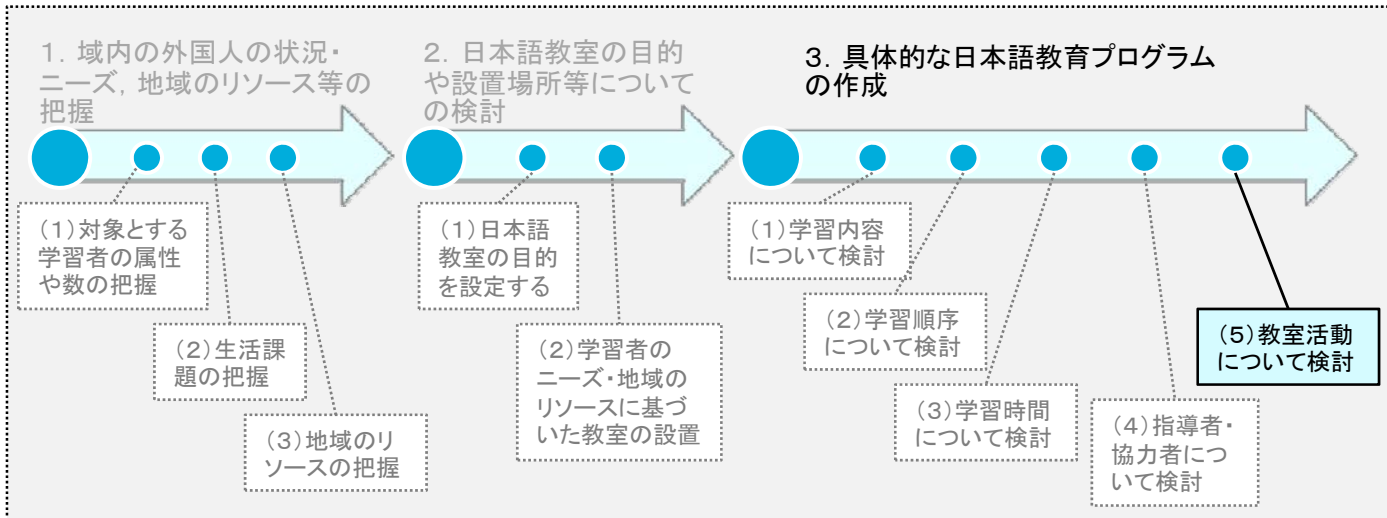
(5) 教室活動について検討

① 行動・体験中心の教室活動について検討

・行動・体験中心の教室活動について

行動・体験中心の教室活動を行うための条件	行動・体験中心の教室活動の内容(例)	取り扱う生活上の行為の事例	活動方法の例 (※活動方法の詳細はp.xx～p.xx参照)
関係機関の協力を得ることができる	・関係機関の協力のもと、生活上の行為が行われる場所を訪問したり、施設見学、シミュレーション等を行いながら日本語を学ぶ。	4403030 利用方法を尋ねる(地域の公共施設) 4501100 手紙や葉書を書いて送る	・施設見学 ・シミュレーション
実体験を行うことができる	・生活上の行為を体験しながら日本語を学ぶ。 ・いきなり体験をすることが難しい場合は最初に観察を行う。	0801050 デパート、スーパーマーケット、コンビニ、電器店、書店等で買い物をする 1004060 券売機を利用する	・実体験
協力者・ゲストの参加が得られる	・協力者・ゲストを招き、教室活動を行う。 ・フォトランゲージやランキング等により、広く対話・交流を中心とした活動を行う。	0301090 流行性の病気についての情報を理解し、適切に対処する 3302080 支払方法を確認する(各種税金)	・フォトランゲージ ・ランキング等
視聴覚機器が利用できる	・ロールプレイにより学ぶほか、生活上の行為を見て学ぶ。	(視聴覚機器による)	・ロールプレイ等

【作業全体の中での位置付け】



【作業の内容】

(5) 教室活動について検討

②教材について検討

○①の教室活動で扱う生活上の行為を行う際に用いることのできる「多言語情報」、生活上の行為の場面を示した「写真」や「イラスト」、「やり取りの例」に含まれる表現等、生活上の行為を行う上で有効な情報が含まれるものを教材として活用することが重要である。

③評価について検討

○外国人の社会参加・エンパワメントにつながったかどうかという観点から評価を行う。

○具体的には外国人の生活課題の解決につながる教室活動が展開できたかどうか、地域の実情に応じた教室活動の展開ができたかどうか、対話による相互理解の促進が進んだかどうか、生活上の行為が行えるようになったかどうかという観点から評価を行い、その結果を基に具体的な日本語教育のプログラムの振り返りを行う。